

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000328		
法人名	有限会社 ノーマルライフ		
事業所名	グループホームおてんとさん		
所在地	大阪府東大阪市吉田1丁目5番30号		
自己評価作成日	令和元年8月17日	評価結果市町村受理日	令和元年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 施設の近隣には地域の社会資源であるコミュニティカフェや、リニューアルOPENした花園商店街、自治会館などがあり、地域との連携を図りながら積極的に行事参加や交流を行っています。</p> <p>2. 朝の体操、嚙下予防体操やレクリエーションを継続し、ADL低下の予防に努め、利用者さんの意欲や能力等に配慮しながら、日常生活行為の中で役割をもって個々に出来る事をして頂けるように支援をしています。</p> <p>3. 初心を忘れず、常に学ぶ精神を持って職員自身がケアの向上に努めるとともに、利用者さんとのコミュニケーションを大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所の特徴は、高齢者が慣れ親しんできた地域や馴染みの関係などを大切に、グループホームを社会資源の一つとして位置づけ、地域と関わって運営していることである。グループホーム、デイサービスセンター、街かどデイハウスの利用者や地域の老人クラブと一緒に、敬老会イベントなどを行い、地域交流も活発に行っている。法人代表者は花園商店街の会長でもあり、商店街にある街かどデイハウスやコミュニティカフェの責任者が、運営推進会議のメンバーとして事業所に関わっている。今年、9月から10月にかけて、花園ラグビー場でラグビーワールドカップが開催され、観戦に来た方々にも花園商店街を訪れて欲しいと、商店街はじめ自治会やグループホーム、デイサービスセンター、街かどデイハウス、コミュニティカフェなど、花園地域が一体となって色々な取り組みを行っており、多くのテレビ、ラジオ、新聞などで紹介されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームに大切な個別ケアの質の向上を図り、入居者おひとりおひとりが安心し、安定した生活が送れるようにどうすれば良いかを話し合い、毎年、理念の見直しを行い、職員全員が個々に意識を持って実践出来るように努めている。	「初心をわすれないように」を理念に掲げている。年間の目標も職員参加で設定して改善に努めている。代表者が思い描く高齢者の暮らしをサポートするために、職員が夫々に意識を持ち、考えて日頃のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設当初から自治会に加入しており、お祭りや地藏盆等、自治会の行事に参加したり、カフェや街角デイハウスとの連携を図り、商店会の取組みなどにも賛同し、出来る限り参加して交流を図っている。	地域と事業所は車の両輪との考えの基に交流が行われている。昨年の台風で傷んだ商店街のアーケードのニューアル、お祭りや町の行事はすべて、地域のためであり、高齢者が安心して住み続ける為であると考えた代表者(花園商店会長)の取組みである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や近隣の方からの介護相談等は随時対応が出来るように努め、又、地域の社会資源を活用し、参加する事で認知症の人の表情や行動、実際に職員が支援をしている状況を見て頂き、理解をして頂けるように努めています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、運営状況や生活状況、行事などの報告、課題検討事項については参加者からのご意見、要望や助言を伺い、実践出来るように努めている。又、出来るだけ入居者さんからも自由に発言して頂いている。	所轄の地域包括支援センター、すぐ近くのコミュニティカフェの代表者、利用者も参加してみっちり1時間、利用状況や事業所の課題が報告され外部からの参加者が意見を述べている、A46ページの議事録がまとめられ、充実した中身のある会議となっている。街づくりの計画などについても話題が及んでいる。	地域密着型サービス事業所として運営推進会議が活用されている。長文の議事録のポイントを家族にも報告する工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者は、街角デイハウスをはじめ、地域密着型ケアサービスについて、積極的に市の担当者と意見交換などを行い、サービス向上に取り組む為の協力関係を築いている。	代表者は事業所のみならず、地域の高齢者の居場所づくり、高齢者介護のあり様について行政の担当者と意見を交換している。先ず、実際に取り組んでみる事が重視されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践するためのマニュアルに基づき、事例を挙げて研修及び周知を行う事で理解をしている。また、ホームの出入り口やエレベーター、内玄関は原則開錠しており、圧迫感のない環境づくりに取り組んでいる。	7月の運営推進会議において「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」の取組が報告された。向精神薬等で行動を抑制することも拘束の範疇となることも含めて職員全員が勉強して知識を深めてケアに活かすと共に、玄関の施錠等は利用者の立場で拘束感をなくするように見守り、声掛けを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のためのマニュアルに基づき、事例を挙げ、研修及び周知を行う事で理解をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の資料については、マニュアルと同様、閲覧できるように配置しているが、現在は対象者がいない為、実践できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず、重要事項説明書に基づいて、契約等の内容を説明させて頂き、利用者やご家族の不安や疑問がある場合はその箇所を丁寧に説明を行い、理解と納得の上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年恒例行事において家族の参加を頂き、要望を聞く機会を設けると共に、「ご意見箱」の設置、訪問時に家族さんとのコミュニケーションで得た意見や要望を集約し、運営に反映するように努めている。	電話やメール等のSNSを活用して状況を報告して家族の意見を聞いている。家族も参加する行事を計画して、利用者の健康状態や暮らしぶり、またケアの様子を家族に見てもらっている。職員が利用者を理解してケアを行っている様子が家族に伝わっており、家族の職員への信頼も厚いものがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、代表者や管理者が積極的に職員とのコミュニケーションを図り、その会話から引き出した意見等を職場環境や待遇の改善に反映している。	職員にとって働きやすい職場、年齢への配慮、職員間の良好な人間関係への配慮等、少人数の職場として必要な配慮が行われている。提案・報告などはミーティング、引継ぎ、日勤日誌への記載で情報共有に漏れがない様に工夫している。訪問当日にも代表者と調査員が意見交換が出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の勤務状況やケアに対する意欲や努力等について個々にモニタリングを行う事で把握をしている。又、各職員が個性や知識、技術を発揮出来るような職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は度々現場に入りながら、職員の状況や希望などを把握し、必要に応じて社内外の研修やスキルアップの為の資格取得が出来るように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が主催する「つながりカフェ」「地域支え合いネット」を始め、「東大阪市POS（PT専門職他職種）の会」、地域包括主催の勉強会などにも積極的に参加し、講師としても努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報やご家族からの聞き取りなどを参考にしつつも、ご本人からも不安や要望などが聞けるように、事前に見学や短時間の滞在など、なるべく環境や人間関係づくりが出来るようにお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学時の早期から少し時間を頂き、その時点でご家族として一番困っている事や意向などを出来るだけお話して頂けるような雰囲気づくりや環境づくりに心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの現状や要望を基に、どのような場所で、どのようなサービスを必要とされているのかを見極め、GHだけではなく併設する事業所や他施設との連携を取りながら対応する様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人の「伴走者」であるという意識を持ち、日常生活での喜怒哀楽を共に、ご本人の個性や能力の発揮が出来るように支援を心掛け、寄り添う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族が利用者さんを思う気持ちや絆を大切に、ご家族の不安や悩みを共有し、一緒に解決すると共に、ご家族と共にご本人を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人などの関係者が、いつでも訪問して頂けるような雰囲気や環境づくりを心掛け、自宅やご家族の住まい、行きつけのお店等馴染みのある所へは、ご家族に協力頂き外出をお願いしています。	高齢者介護にとって馴染みの町で暮らす、知り合いの近くで暮らす、このような生活を大切にするケアを行う、という考えが徹底されている。知人、友人、親戚、趣味、馴染みの店などの情報を把握して、外出時に本人の思い出に繋げる工夫などを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの性格や相性等の把握し、利用者同士が安定し、お互いに支え合う関係を築けるように声掛けを行い、レクリエーションや炊事、洗濯、掃除などを一緒にする事で関わるきっかけづくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も気軽に立ち寄られたり、行事の参加をお願いしたり、いつでもご本人やご家族の相談支援が出来るような関係づくりを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々にコミュニケーションをとり、今の生活に対する思いや希望などの意向を把握する様に心掛け、意思表示など困難な場合は、日頃の表情や言動、行動等を把握し家族や職員と話し合い、検討している。	勤務経験が利用者の入居年数と近い、あるいはそれ以上の職員が多く、本人の思いや意向が良く把握されている。家族と職員との間にも相談報告が出来ている。利用者の症状の変化に注意しながら、暮らし方の対応、処方を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また入居前までに関わっておられた関係者の方からの協力をお願いし、情報の掌握に努めると共に、日々の生活での関わりの中でも情報を得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報を基に、様子観察や日々の記録を照らし合わせて、生活のリズム(起床及び就寝時間等)や生活習慣、残存能力の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に個々のアセスメント及び、モニタリングを繰り返し行い、家族、職員等との担当者会議を設け、その時々課題やケアの方向性を話し合い、得た意見やアイデアを介護計画の作成に活かしている。	計画担当者が中心になってアセスメント及びモニタリングを利用者毎に確認する際に、職員による変化の気づきや意見を聞き、見直しの判断を行っている。家族の意向、かかりつけ医の意見を参考にして介護計画の見直しに繋げている。家族への説明も丁寧に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録において日々の様子やケアの実践を記録し、毎日の朝・夕のミーティングにおいて情報を共有し、実践や計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事情により個別な対応が必要な場合は、管理者はじめ全職員が臨機応変に対応出来るように心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	街角デイハウスやコミュニティカフェとの連携を図り、商店街イベント等に参加する事で個々の持つ心身の力を発揮し、楽しみながら充実した暮らしとなるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設では、2週間に一度の訪問診療をお願いしておりますが、かかりつけ医で専門的な診療科については、これまで通りご本人の状態を通院時に報告し、適切な治療や処置が受けられるように支援している。	基本的には家族の希望を優先してかかりつけ医を選定している。契約医療機関による内科往診は2週間ごとに行っている。専門医の場合には家族の協力を得ながら、体調を詳しく伝えるなど治療の参考情報を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスには午前中、看護師を配置しているが常勤ではない為、緊急時や体調の変化があった場合は、訪問診療の医師に直接、管理者や職員が相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前、入院中に医師や看護師からの経過や状況説明がある場合は、家族承諾ものと管理者が同席し、出来る限り、情報交換やコミュニケーションを図り、安心して治療や早期退院が出来るように取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、全てのご本人、ご家族と具体的な話し合い等が出来ておらず、事業所としての役割や支援についての取組みは今後の課題である。ご本人やご家族の希望に沿えるように努めたい。	重度化及び終末期の対応については入所の段階で事業所の方針を説明して同意を得ている。看取りについては医師の選定、職員の体制等が整備できない。看取りに近い対応経験はあるが、本格的な看取り体制づくりは今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、研修やマニュアルの整備などを行っている。施設にて消防署の救命救急講習会を実施し、初期対応や応急手当等の実践力が見につくように取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の事業所との自主訓練や消防署立ち合いのもと防災訓練を行っており、協力体制を整えているが、自治会や防犯との協力体制も図れるように努めたい。また、避難グッズや環境整備、備蓄物品等の準備も並行し、進めたい。	併設のデイサービス事業所と協力して、建物としての防火管理体制を取っている。防災計画の立案、消火・避難訓練の定期的な実施を消防署の指導及び立ち合いを得て行っている。昨年9月の強力台風の経験などから、職員の防災意識も高くなってきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの育った環境や人格を尊重し、その人らしく、生き生きと過ごせるように、又、尊厳の維持とプライバシーの確保に努め、利用者さんの気持ちを理解しながら声掛けをするように心掛けています。	利用者9人の共同生活であるが、個人の人生経歴は異なるので、人格を尊重する、利用者のプライバシーに配慮する、個人情報保護する等、本人の生き方を尊重して配慮することを職員が理解して対応するように徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションをよくとり、話しやすい雰囲気や環境づくり、人間関係づくりを心掛けると共に、ご本人自身が発せられる日々生活の中での言動や行動、表情からも把握できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの個々に生活のリズムを把握し、ご本人の思いや体調、希望などを伺いながら日々を過ごして頂けるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	偶数月の第3木曜日に、訪問美容を利用している。また、爪切りや髭剃りなど個々の状態を見ながら身だしなみを整え、出来る限り同じ服装ばかりにならないように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は日々の中で最も楽しい時間であり、音、匂い、調理等が見えるようにして五感を刺激し、食欲を引き出す事できっかりと食事をとって頂く様に努めています。又、準備や後片付けも一緒にしている。	職員が食材を仕入れ調理した料理が提供されている。職員は献立表に基づく買物に行くが、その日の店の野菜や魚の鮮度や利用者の好みを買物する職員の頭をよぎり、買物内容を変更する場合があると言う。利用者に美味しい食事を提供してあげたい、という職員の思いが籠った食事が提供されている。	左記の話は、職員ヒヤリングで聞いた話題である。手作りの料理提供を今後も継続を期待します。(おてんとさんの心)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や水分摂取量等を個別に記録しており、個々の嗜好や嚥下状態、摂取量を把握し、普通、刻み、ミキサー等の食事提供を行っている。また、食事量により栄養剤を処方してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、個別での口腔ケアを実施し、口腔ケアの実施状況等の記録を行っている。又、訪問歯科を利用し、歯科医師や歯科衛生士からの指示や指導がある場合は職員に周知し、ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン(時間や回数等)を把握して、又、表情や言動、行動から尿意、便意の予兆を察知出来るように努め、トイレでの排泄が出来るように支援を行っている。	排便のコントロール、排尿の習慣作りにより、利用者は毎日が気分よく、快適に過ごせる生活のベースであるという排泄支援の基本に基づいた支援がされている。シフトに入った3人の職員が9人の利用者にタイミングの良い声掛けと誘導がおこなわれていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の身体状況を把握すると共に、発酵食品や他の食材などを食事に取り入れ、メニューの工夫もしている。また、医療とも連携して薬を処方し、腸内環境を整えたり、便秘の予防や改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を基本として、曜日や時間を個別に定めているが、心身の状況等により随時変更している。又、季節に応じた入浴剤を使用してリラックスを促し、会話、歌を歌い楽しく入浴が出来る様に努めている。	入浴の予定は利用者毎に決めているが体調や気分による拒否がある時は、日にちを変えたり時間を変更して無理強いを避けている。気分よく入浴できるように入浴剤を使ったり、入浴中に楽しい会話をするなどの工夫が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や生活のリズムを把握し、様子を見ながら声を掛けをしたり、なかなか眠れない時は、温かいお茶等を飲みながら会話をするなど、ご本人がリラックスされ、安心されるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方されている薬の理解し、頓服などの薬も合わせて確認する。又、服薬後に変化があった時は記録及び報告を主治医に行い、医療機関へ受診や服薬調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や習慣、又、今の日常生活の中での楽しみや嗜好品などを見つけて把握すると共に、個々の役割や力が発揮出来るような支援が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーへ買い物、定期通院、商店街にあるカフェや神社、花園中央公園等へも外出している。又、ご家族と一緒に外食や買い物、法事などへも自由に外出して頂いたり、地域のイベントへ出掛けられるように支援している。	1キロ弱の距離にある花園中央公園(ラグビー場)への散歩、リニューアルされた商店街の散歩、近くの神社へのお参り、適度に坂もあり気分転換になる散歩である。お祭りの時の地車見物も楽しみである。デイサービスとの交流も楽しみである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望があった場合には、少額のお金を所持して頂き、個々に応じて支援できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される時は、自身で掛けられるかどうか等を確認し、必要に応じて支援をしている。又、手紙やはがきを書かれる事はないが、ご本人宛の郵便物が届いた時は直接お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太陽光、風、空間、色、体感温度等には十分に考慮し、設計している。食堂・リビングは1日のうちで最も長い時間過ごす空間である為、床暖房の設置、東側に大きな窓を配置して常に生駒山の山並みが見え、四季の変化を感じられる。	リビングの東側の開口窓から生駒山系の四季折々の新緑や紅葉が望めるように、設計段階から考慮されている。日中くつろぐリビングと厨房との間も調理の音や匂いが伝わる距離にある。大型テレビにカラオケを映し、昼食前の歌を楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビング以外に、商店街や生駒山の山並み等が見える広いバルコニーや同じフロアに相談室、1階には芝生の庭があり、ベンチやテーブルなどを設置しており、自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の協力を得て、馴染みの物や写真、仏壇等も置いている。又、個々の身体能力に合わせて家族と相談して、家具等の購入や部屋の模様替えを行い、居心地よく過ごせるように工夫している。	本人の入居前の自分の部屋と雰囲気と同じようにするために、家具(椅子や仏壇)やテレビ、写真を置いて本人が落ち着いて過ごせるような部屋作りが行われている。居室は清掃が行き届き清潔に維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力や可能性を把握し、ご本人が安全かつ、自身で出来るように、道具の工夫や環境設定等を行い、また、声掛けやコミュニケーションを心掛け、安心できるように支援している。		